

第一回目の現場見学会を留萌で開催

間近で急傾斜地工事の難しさも体験

主催:急傾斜地工法研究会/相取工法協会

急傾斜地工法研究会と相取工法協会は7月24日、留萌市内で第一回目となる現場見学会を開催した。現場は、山高建設工業が施工する「留萌南町4丁目2急傾斜地崩壊対策」で留萌建設管理部の発注。伊丸特殊工事が土留柵を相取工法で請け負っている。見学会には、会員企業はもとより道外からも資材メーカー数社が参加するなど、総勢34人が施工中の「相取工法」を実際に目の前にした。

はじめに中塚卓朗会長が「多数の皆様にご参加いただき感謝いたします」とあいさつ。当日のスケジュールと現場で使われている新製品“マルチ GRID”を紹介した。続いて山高建設工業の入山進現場代理人は全体概要を説明。加賀谷俊明技術委員長が、相取工法でジブクレーン3台を段階的に急傾斜地に設置した過程を説明した。現在は3台が稼働中で、最上段8段目の土留横材設置を終え、前週にその段のU型側溝が完了した。今後は下の段に順次土留柵工を施工していく。



参加者は、昇降階段を上りジブクレーンのそばに近づいたり、H型鋼の足場を確認するなどして急傾斜地工事を安全に施工する難しさも感じ取っていた。特に傾斜に張り付くようなジブクレーンの足場をスマホで撮影するなど、これまでに見学する機会がなかった現場を体験していたようだ。

天気も何とかもってくれて、終了近くに雨が降り出したものの第一回目の現場見学会を無事に終えた。

山根浩副会長は「設立総会からわずか1か月ほどで、第一回目の現場見学会を早々に開催でき嬉しい。発注者側にも私たちが何をしているかを理解していただくことは重要だ。次回の見学会も秋には計画中なので、機会があるなら是非とも参加を」と呼び掛けている。

*今回は、留萌市内への入り口付近で国道からも20分ほどの距離になり、全体の見通しが良い場所だった。ほとんどの参加者は現地に直接車でいらしていただき、当初用意したバスをキャンセルするほど。それでも34人の参加はこの種の見学会としては多く、大盛況で終わりました。

2023.7.24 留萌市南町4丁目の現場にて
天気 曇りのち雨 気温 26.3度 (午前11時)

